

第 3 2 9 回
日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会
《 プ ロ グ ラ ム 》

日 時：平成 1 6 年 3 月 1 3 日 (土) 午後 3 時
会 場：イタリア軒 3 階 『サンマルコ』
新潟市西堀通 7 025-224-5111

次回 第 3 3 0 回新潟地方会予告

期日：平成 1 6 年 6 月 1 1 日 (金) 1 2 日 (土)
会場：新潟県佐渡市 両津やまきホテル
演題申込期限：平成 1 6 年 3 月 1 1 日 (木)

- ※ PC 発表でスライド 1 面 1 0 枚以内。
- ※ 口演時間は、1 題 6 分。討論 2 分

951-8510 新潟市旭町通 1 の 7 5 7
新潟大学医学部泌尿器科学教室内
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784
会長 高 橋 公 太

1. 前立腺癌に対するアンドロゲン抑制療法に伴う生体の変化：体重、空腹時血糖、脂質、BUN、Cre、尿酸についての検討

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

石崎文雄、西山 勉、安楽 力、志村尚宣、若月俊二、谷川俊貴、高橋公太

【目的】前立腺癌のアンドロゲン抑制療法 (ADT) に伴う生体の変化を検討した。【方法】根治療法前の49例で、ADT前、6ヶ月後の体重、FBS、脂質、BUN、Cre、尿酸につき検討した。【結果】体重が有意に増加 ($p = 0.037$)、FBS ($p = 0.014$)、TC ($p = 0.017$) は有意に上昇したが、HDL-C ($p = 0.137$)、TG ($p = 0.460$) は変化を認めなかった。BUN ($p = 0.030$) は有意に上昇し、尿酸値 ($p < 0.001$) は有意に低下した。【結語】ADT は脂質、蛋白代謝に影響していた。

2. 前立腺癌患者に対するアンドロゲン抑制療法に伴う骨代謝マーカー、Ca、IPについての検討

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

安楽 力、西山 勉、石崎文雄、志村尚宣、若月俊二、谷川俊貴、高橋公太

【目的】前立腺癌患者に対するアンドロゲン抑制療法 (ADT) に伴う骨代謝の推移を検討した。【方法】根治療法前にADTを行った患者49例に対して、ADT前と治療6ヶ月後の骨代謝推移を検討した。【結果】補正Ca ($p < 0.001$)、IP ($p < 0.001$)、尿中DPD/Cre ($p < 0.001$)、血清中BAP ($p < 0.001$) は有意に上昇し、DEXA ($p = 0.023$) は有意に低下していた。【結語】前立腺癌に対するADTに伴い骨代謝が亢進し、続発性骨粗鬆症の発生の危険があると思われた。

3. 腎血管筋脂肪腫の自然破裂で aortic occlusion balloon を用い救命しえた一例

立川総合病院	泌尿器科	瀧澤逸大、擣木 立、上原 徹
	心臓血管外科	菊地千鶴男、山本和男
	腎臓内科	小山裕子、青柳竜治

63歳女性。48歳時に人間ドックで左腎腫瘍を指摘され、腎血管筋脂肪腫の診断で定期観察となる。2003年9月に左側腹部痛を訴え近医再診。CTにて左腎被膜内出血が認められていたが検査後再診しなかった。同年10月強い左側腹部痛あり、救急受診した病院のCTにて左腎破裂を認めた。当科紹介受診時はショック状態であったため大動脈バルーンカテーテルを挿入し、血圧が安定したのち左腎摘出術を施行した。術後一時透析が必要となったが腎機能は回復し退院となった。

4 . 腎血管筋脂肪腫に対する検討 -腎自然破裂症例を通して-

長岡赤十字病院 泌尿器科 田崎正行、高橋裕二、米山健志、森下英夫

腎血管筋脂肪腫（以下 AML）は過誤腫の一種であるが、まれに自然破裂により腎周囲、後腹膜に出血を来たす事がある。当院でも今回、非外傷性腎破裂を契機に発見された AML の一例を経験した。AML の治療方法には、経過観察、腎摘出術、腎部分切除術、動脈塞栓術など様々な意見があるが、現在当院では 11 例 AML の患者を follow up としており、その AML の検査、治療方法について再検討してみた。

5 . 尿管狭窄をきたした子宮内膜症の 2 例

新潟市民病院泌尿器科 笠原 隆，川上 芳明，大澤 哲雄
同 産婦人科 竹内 裕，柳瀬 徹
豊栄病院泌尿器科 西山 勉

子宮内膜症は婦人科領域では一般的な疾患であるが、泌尿器科領域で本疾患が認められることは比較的稀であるとされる。最近我々は、子宮内膜症により尿管狭窄を来した症例を 2 例経験した。いずれも 40 歳代未婚で、妊娠・出産歴がない。尿管狭窄に対する治療として、尿管膀胱新吻合手術を行った。

15:40～16:27

座長 若月俊二

6 . 尿道吊り上げ術後に再発した腹圧性尿失禁に対するTVT手術の経験

厚生連けいなん総合病院泌尿器科 筒井寿基
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野 小原健司

症例は 49 才、女性。平成 4 年に腹圧性尿失禁に対して尿道吊り上げ術を行っていた。運動時に腹圧性尿失禁が再発し、TVT 手術を希望して、けいなん総合病院泌尿器科に入院した。TVT 手術は局所麻酔で行い、術中の咳テストが可能であり、術後尿失禁は消失した。UFM では術前の Qmax は 20.9ml/s であり、術後 3 ヶ月目の Qmax は 14.8ml/s に低下していたが、排尿困難や切迫性尿失禁は認めていない。

7 . 県立がんセンター新潟病院泌尿器科における平成15年手術統計

県立がんセンター新潟病院 泌尿器科
小松集一、小瀬川悦子、鈴木一也、齋藤俊弘、北村康男、小松原秀一

当科における平成 15 年の手術の集計を行った。手術数は 826 名で、延べ 869 件であった。同一症例で複数回または複数箇所の手術を行っている場合があり、これらはそれぞれ 1 件として集計した。PSA の普及により前立腺生検の件数が著しい増加をみせており、またこれに伴い前立腺全摘の件数も倍増している。新年度から新潟市でも PSA 検診が行われる予定であり、今後

もこの傾向が続くと思われる。

8 . 新潟大学泌尿器科における 2003 年の手術統計

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

水澤隆樹、車田茂徳、渡辺竜助、高橋公太

2003 年に新潟大学医歯学総合病院泌尿器科で施行された手術症例について検討した。対象症例総数は 444 例 (男性 347 例、女性 97 例) で、2002 年の症例数 378 を大幅に上回った。前立腺生検、前立腺全摘術等の前立腺手術件数の増加、そして腎、前立腺の腹腔鏡手術あるいは腹腔鏡補助下手術の割合の増加が特徴的であった。

9 . 新潟市民病院泌尿器科における平成 15 年の手術統計

新潟市民病院泌尿器科 川上 芳明、笠原 隆、大澤 哲雄

延べ手術患者数 589 人、延べ手術件数 597 件。 腎 : 52 件(根治的腎摘 17、腎尿管全摘 13、PNL 8)。尿管 : 33 件(TUL 13、尿管鏡 6、尿管切石 4)。膀胱 : 90 件(TUR-Bt 57、膀胱碎石 21、膀胱全摘 5)。尿道 : 19 件(内尿道切開 9、尿道形成 5)。前立腺 : 238 件 (生検 204、TUR-P 26、被膜下摘除 8)。陰嚢内容 : 42 件(精巣固定 18、陰嚢水腫根治 8)。陰茎 : 16 件(環状切開 7、コンジローマ切除 5)。副腎その他 : 10 件(副腎摘除 4、その他 6)。ESWL : 97 件

10. 新潟県における前立腺がん検診の試み - 平成 15 年度検診結果報告 - (15 分)

新潟県医師会前立腺がん検診小委員会

小松原秀一、富田善彦、西山 勉、片桐明善、斉藤俊弘、若林真理子

前立腺がん検診は平成 12 年度から試行を重ねてきた。中下越地区では平成 13 年度 7 町村、14 年度 8 町村、15 年度 13 町村で行われ、それぞれ 28 名(受診者数の 1.9%)、19 名(1.7%)、43 名 (1.6%、中間報告) の癌が発見された。16 年度からは県内で統一された検診要領に従って行われることになり、検診地域の拡大が予想される。

16 : 27 ~ 16 : 45

日本泌尿器科学会新潟地方会総会

[休 憩 16:45～17:00]

お 知 ら せ

日本泌尿器科学会専門医・指導医に必要な新潟地方会参加証は、地方会当日受付に用意してありますので、必要な先生は受付に申し出て下さい。

サ テ ラ イ ト セ ミ ナ ー

日 時：平成16年3月13日(土)

17時00分～18時15分

会 場：イタリア軒 3階『サンマルコ』

17時00分～17時15分

〈製品紹介〉

『低侵襲性手術・手技における感染防止対策 ～経口抗菌薬の位置付け～』

第一製薬株式会社 医薬学術部 PMグループ 広瀬 智三

17時15分～18時15分

〈特別講演〉

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野 教授 高橋 公太先生

『AUA BPH Guideline Update Panel “2003”』

鳥取大学医学部 器官制御外科学講座
腎泌尿器学 教授 宮川 征 男 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

第一製薬株式会社

※ サテライトセミナー終了後、懇親会を2階「ローザ」にて行います。